

秋詠

著者	小林, 章
雑誌名	龍南
巻	2 0 8
ページ	5 4 - 5 4
発行年	1928-12-10
URL	http://hdl.handle.net/2298/9043

秋 詠

小 林 章

羊齒の葉の二つ三つ見え粗土に香り冷き山切りの道
ひるびろと荒草生ふる平原をめぐりて遠き山の起き伏し
午後の日の光靜もる 脊戸田には人等來りて稻を刈居る
秋漸く移らふならしま晝まを稻束積みて親子らのをり
親子らの顔は見えねど稻を刈る其のなりはひのつゝましきかな
わが宿の脊戸の稻田に刈藁の積まるる頃は時雨降るなり
雨止みて夕月照らす脊戸田には今宵したしも蟋蟀の聲
秋の月出でて明るし廉賣の街を過ぎんとわれは來にけり